



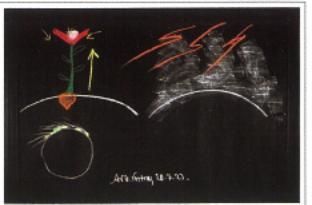
ルドルフ・ショーダイナー

(一八六一一一九一五) ドイツの思想家。旧ハプスブルク帝國領の邊境クラリツ・ヴェクに生まれる。ウイーン工科大学卒業後、ゲーテ全集の編纂に参画。特にその

A black and white portrait of Kōki Hirota, a Japanese statesman. He is shown from the chest up, wearing a dark suit and a white shirt with a high collar. His hair is dark and receding at the temples. He has a serious expression and is looking slightly to his left. The background is plain and light-colored.

シュタイナー・コレクション

本邦初訳の著作を結集し、新たな角度から照射するシュタイナーの全貌



高橋巖 個人全訳 全7巻

自分の外へ向かう道と内へ向かう道とが出会う地点を、シュタイナーは「靈」と呼びました。人間の中の靈性、靈界としての宇宙。シュタイナーの靈学は、この二つの靈の一致を論じます。人生、教育、芸術、歴史、神話、宗教の諸問題として、内と外とのこの「出会いの秘儀」の場を提供するのが、このコレクションの目標です。この生きがたい世を生きる希望の光となりますように。

高橋謙

筑摩書房

第1回登壇 2003年6月19日

子どもの教育

-480-79071-3 1600円(税別)

- ・豊富な観点からの子どもの教育(新訳) 2.子どものための教育小論/人哲學的な教育の特質/感覚の教育*/教育と芸術/教育と道徳*/3.教育のためのお祈り *印は初訳 192頁

*印は初訳 192頁

第2回発売 8月9日 *以降、隔月・巻数順刊 價格各巻不同

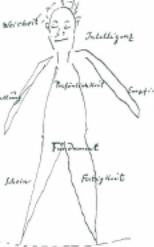
2. 内面への旅 4-480-79072-1 2200円(税別)

- ・感覚の世界から靈の世界へ★ 2.オカルト的な読み方と聴き方★
・音と言葉の由来★ 4.内面への旅★ *印は初版 304頁

造本/体裁 新書判・上製・本文12.5級 ●ブック・デザイン=神田昇和

◆このコレクションの特色

- ・新たな角度からのシュタイナー像を描いたためほんとを本邦初訳の著作で構成した。
 - ・永年シュタイナー思想の研究・紹介に尽力してきた高橋精義個人による訳全文。
 - ・シュタイナー思想の多面性が一望できるよう7つのキー・テーマ設け、著作を配置。
 - ・各巻には、中心的な著作に加え、その周囲にシュタイナー自身の小論議や訳者解説などを適宜収録。テーマの充実を図った。



紙面 本地のリズム（ショタイナー「遺された黒板繪」より） 01.05 Akane

ご注文・お問い合わせは、お近くの書店、または下記の筑摩書房サービスセンターまで

〒331-8507 さいたま市北区櫛引町2

シュタイナー・コレクション 全7巻

*印は初詠巻

1 子どもの教育 靈学の観点からの子どもの教育他

「シャタイナー自身による「シャタイナーの基本書」『全面新訳』。訳者による繊細な解説「ほかせる意志」と「子どもの教育」を付す。

2 内面への旅 ★ 感覚の世界から靈の世界へ オカルト的な読み方と読み方他

「心の深層の秘密を解明するシャタイナーの代表的な講義集をまとめた。新たに「自分の出会い」のための書。

3 照応する宇宙 ★ 古代秘傳におけるアストラル体の体験工―ナル体の体験を具体的に

「ゴンスの現代的意味を考察」、「宇宙くの旅」を詳述する。

4 神々との出会い ★ 「古代・中世・近世の歴史的現実を、代表的な人物たちをつか動かして」る衝動の中に見ゆつけるシャタイナーの世界史概論

「マタイ福音書」をテキストに、ヒューラー、キリストの系譜をソラト

5 イエスを語る ★ マタイ福音書他

時代を新しいリネンス時代と見、ギリシア・神話の「オカルト」の本質に迫る。

6 歴史を生きる ★ 人間学から見た世界史I・II

古代・中世・近世の歴史的現実を、代表的な人物たちをつか動かして

7 芸術の贈りもの ★ 芸術論集

「20世紀初頭の時代精神から新しい芸術の方向を切り開いて」とする美術家シャタイナー。カントンスキーからヨーゼフ・ホイスまでの芸術行為の原点。

二十一世紀の靈知をさぐるために

荒俣 寛

一本の柱

志村ふくみ

一九七〇年代に「神祕學」という新鮮な用語が流布した。その中心にいたのが「ルドブ・シユクイナー」であった。私自身にとっても、シャタイナーとの出会いは、それまで知れぬ領域だった。オカルトは、知と哲學の根をわざわざための大きなかつかけとなった。オカルトといえど、當時は魔術や超能力を意味し、明らかに闇のフィールドであつたのに、その魔力が靈の光の仕にあつても宇宙的な新鮮な感覚をもたらすところ、私たちは驚きの眼で目撃したのだった。しかし、シャタイナーの思想はまわり多岐にわたっており、その全貌を紹介するには、科学、美学、哲学、倫理、教育、医学、心理学などに精通した先達が必要であった。さういふ奇抜的な先生が一九七〇年代日本に登場したのである。訳者高橋禪氏は、氏が靈能大学で教鞭をとられていた時代に、私は学生として教えを受けた。ドイツ語の「テキスト」をいまなり「アーティクル」だつたことに驚き、語学をそちらけで高橋先生の神秘論義に熱中したものである。このたびのシャタイナー・コレクションが、筆の問題を忘れてかけた二十一世紀に向けて、あなたび新鮮な神智と人智を示してくれることを確信する。

香り高い神祕の世界のはじまりだった。

